

絶滅危惧種ウナギを食す日本！  
長良川に生きぬくウナギと伝統漁法から  
鰻をうまくだく未来を考えよう！



illustration by ©Michiyo

長良川は2015年12月、国連食糧農業機関（FAO）の世界農業遺産に認定されました。

岐阜県はもとより、流域に住む多くの人たちが喜びにわき、より良い長良川をめざしています。今回の長良川連続講座2回目は「ウナギ」に焦点をあて、伝統漁法が行われる長良川のウナギや、荒瀬ダム撤去後の球磨川のウナギなどの生態から、日本人が大好きな「鰻」はいつまで食べることができるのか？絶滅危惧種「ウナギ」と日本の食文化「鰻」を知り、川の未来について考えたいと思います。

プログラム 全体司会：原田 さとみ 氏

13：30～15：00 第1部 お話を聞く（90分）

講演1

13:30～14:10  
（約40分）

題目：ウナギの絶滅危惧種指定と世界一の消費国としての責任

講師：伊藤 文成 氏（国立研究開発法人水産総合研究センター理事）

内容： 日本と世界のウナギ資源（絶滅危惧種に指定、世界のウナギ漁）  
ウナギの生態（これまでに分かったこと、まだまだ不明なこと）  
21世紀もウナギを食べられるようにする工夫（人工種苗生産、環境保全）

講演2

14:10～14:35  
（約25分）

題目：うなぎ料理の美味しさと魅力

講師：長田 健太 氏（日本料理店 小伴天 店長）

内容： 日本人がうなぎを食べるようになった歴史、理由  
うなぎの料理法・食べ方のいろいろ（蒲焼、ひつまぶしなど）  
うなぎ料理のコツ、苦労話

講演3

14:35～15:00  
（約25分）

題目：海と川を行き来するウナギ 天然ウナギの再生は幻か

講師：つる 祥子 氏（自然観察指導員熊本県連絡会会長）

内容： 海と川を行き来するウナギの生息地の保全  
荒瀬ダムの経験 天然ウナギの再生はできる  
ダムのある川とウナギ、ダム撤去後のウナギの回復  
荒瀬ダムはこうして撤去した

（15：00～15：10 休憩）

15：10～16：30 第2部 わいわい談義（80分）

「川と海をつなぐ希少な生き物ウナギから、  
地域と地球にとっての旨い未来とは何かを考えよう」

パネラー：大橋 亮一 氏（長良川漁師） 伊藤 文成 氏

地村 佳純 氏（碧南海浜水族館主任学芸員） つる 祥子 氏

コメンテーター：鈴木 輝明 氏（名城大学大学院総合学術研究科特任教授）

司 会：原田 さとみ 氏（タレント/エシカル・ベネロープ株式会社代表取締役）



写真提供：④愛知県水産課、⑤日本料理小伴天

主催

愛知県

企画

愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会  
流域チーム

お問い合わせ先

愛知県振興部土地水資源課

TEL(052)954-6121

E-mail: tochimizu@pref.aichi.lg.jp

## 第2回 「清流長良川流域の生き物・生活・産業」連続講座



### 出演者プロフィール



長田 健太 氏  
日本料理小伴天 店長

幼いころから店を手伝い、名古屋文理短期大学にて栄養学を学んだ後に、神戸市の料亭「招福楼」で7年間修行を積む。修行の後、故郷の碧南に戻り、地元の豊かで新鮮な食材を用いた料理を真心と伝統の技で提供するとともに、「真空調理法」という新しい調理方法を用いた新しい味の創造にも努めている。

「日本料理小伴天」：大正9年にうなぎ料理の専門店として



大橋 亮一 氏  
長良川漁師

1935年に岐阜県羽島市で生まれ、現在も長良川で漁を続ける80歳の現役漁師。2010年には、生まれ育った長良川を語った「長良川漁師口伝 僕んたア、長良川の漁師に生まれてよかったなあ(大橋亮一・大橋 修 語り) / 磯貝 政司【聞き書き・写真】/ 人間社」を出版。2012年から愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会委員を務める。



鈴木 輝明 氏  
名城大学大学院総合学術研究科特任教授

愛知県水産試験場の場長を経て現職。伊勢湾再生海域検討会三河湾部会、矢作川流域圏懇談会、愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会等の委員を務める。著書は「水産の21世紀 海から拓く食料自給(分担執筆/京都大学学術出版会)」、「環境配慮・地域特性を生かした干潟造成法(分担執筆/恒星社厚生閣)」など。2004年度に水産海洋学会宇田賞、2010年度、2012年度に水産海洋学会論文賞を受賞。



伊藤 文成 氏  
国立研究開発法人水産総合研究センター理事

長野県で生まれ、魚の勉強のため北海道大学水産学部へ。大学では淡水魚類(ウナギも含む)の繁殖に関する研究に没頭し、大学院を経て水産庁水産研究所(現水産総合研究センター)に入る。入所後、内水面を中心に環境と魚の相互関係に関する研究に従事し、福井県水産試験場長、中央水産研究所内水面研究部長、水産遺伝子解析センター長、日本海区水産研究所長を経て、平成26年から現職。



つる 詳子 氏  
自然観察指導員熊本県連絡会会長

熊本県の球磨川・不知火海流域をフィールドに、底生生物、クマタカ、アユ等の生物調査や水質・堆積物調査などを実施。球磨川流域に関する情報発信や県内における自然観察などに取り組んでいる。自然観察や野外調査の活動に加え、不知火海・球磨川流域圏学会理事、豊かな球磨川をとりもどす会事務局局長を務める。(財)日本自然保護協会より2014年度日本自然保護大賞沼田眞賞を受賞。



地村 佳純 氏  
碧南海浜水族館主任学芸員

琉球大学理学研究科修士課程を修了し、1999年より碧南海浜水族館に学芸員として勤務。飼育展示はもちろんのこと、矢作川での魚類調査、ウシモツゴやイタセンバラなどの希少淡水魚の保全、教育普及活動、施設運営などの業務に携わる。2015年夏には、特別展として「おいしいウナギの話」の企画を担当した。



原田 さとみ 氏  
タレント  
エシカル・ベネローブ株式会社代表取締役

タレント活動のかたわら名古屋テレビ塔1階にフェアトレードのお店「エシカル・ベネローブ」を経営。フェアトレード名古屋ネットワークの代表として普及運動に取り組み、2015年9月には名古屋市長と共同で「国際フェアトレードタウンなごや宣言」を行い、名古屋市を日本で2番目の認定都市に。2015年から愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会委員を務める。

memo